

研修会報告

令和 5 年 5 月 20 日

文責：齋藤 邦倫

研修会テーマ「令和 4 年度細胞診精度管理フォローアップ研修会」

開催日時 令和 5 年 5 月 14 日（日）13：00～15：00

会場 Zoom ウェビナーによる Web 研修会

司会 小泉 照樹

生涯教育点数 専門教科 20 点

参加者 会員参加者 27 名 入会申請中会員 0 名 非会員 1 名 賛助会員 0 名 学生 0 名
合計 28 名

講演 1 「令和 4 年度 宮臨技精度管理調査 細胞診部門調査報告・設問解説」

国立病院機構 仙台医療センター 臨床検査科 齋藤 邦倫 技師

講演 2 「令和 4 年度 宮臨技精度管理調査 細胞診部門アンケート報告

（細胞診報告様式について）」

東北公済病院 臨床検査科 高橋 良輔 技師

講演 3 「甲状腺の報告様式を考える」

東北大学病院 病理部 今野 かおり 技師

講演 4 「乳腺病理・細胞診の動向 ～現状と展望～」

川崎医科大学 病理学 森谷 卓也 先生

内容

新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行した直後の研修会となった。県内でも研修会の実地開催の是非が検討されるようになったが、本研修会では前年と同様に Zoom による Web での開催となった。

講演 1 では細胞診精度管理調査報告・解説を行った。全ての設問において正答率は良好だったが、その中でも正答率の低かった設問を中心に解説を行った。

講演 2 では細胞診報告様式のアンケートについての調査報告を行った。近年推奨される報告様式との乖離が一部で見られ、報告様式の標準化の難しさが浮き彫りになった。積極的に新報告様式を取り入れる施設も見られたが、本アンケートにより初めて認識された報告様式もあったようである。今後も情報共有の場としてアンケート調査を継続していきたい。

講演 3 では教育症例提供にご協力頂いた今野かおり先生より、甲状腺細胞診における報告様式についてご講演頂いた。米国における歴史的な背景なども踏まえつつ、国内に存在する複数の報告様式についてその差異や、新しい分類などにも触れつつ丁寧にご説明頂いた。

講演 4 では日本臨床細胞学会・細胞診ガイドライン改定ワーキンググループの委員長を務め、最新の腫瘍分類や報告様式に沿った細胞診ガイドラインのとりまとめを行った、森谷

卓也先生にご講演頂いた。本講演では乳腺の近年の組織学的分類に触れつつ、従来の報告様式や、今後発行される YOKOHAMA 分類についてもお話しいただいた。最新のコンパニオン診断薬である低発現 HER2 乳癌のお話もあり、内容は多岐にわたった。

今後も宮城県臨床検査技師会員のためにどのような情報が必要であるか検討を重ね、精度管理調査やアンケート調査を行い、これらを通じて得られた結果・考察をもとに研修会を開催し、勉強する場を提供したい。